

ISBN4-901730-65-7

テイプス先生からの7つの提案

大学編



名古屋大学高等教育研究センター

ティップス先生からの7つの提案とは

この冊子は、名古屋大学の学生・教員・大学組織がよりよい教育を実現するための提案と具体的なアイデアをまとめたものです。

名古屋大学の先生方は、すでにさまざまな優れた授業を実践しています。本冊子は、主に学内での調査を通じて収集した教育実践例をデータベース化し、教授法研究や学習理論研究の成果に基づいて、それらを整理し、簡潔な表現にまとめて提供しています。

この冊子のねらいは、教育評価の基準を提供することではなく、名古屋大学に埋もれていた優れた教育実践とそのための知恵を明示化し、大学の全構成員が共有するための枠組みを提供することにあります。優れた授業を通して教育効果を高めるためには、学生・教員・大学組織の三者の努力が同じ方向に向かって統合されていく必要があります。授業改善を教員と学生の努力に求めるだけでは限界があります。大学の仕組み、学習環境に関わる全学的・組織的な取り組みが不可欠です。

たとえば、オフィスアワーを例にとってみましょう。最近多くの大学では、オフィスアワーが導入されていますが、必ずしも学生の利用が期待どおりに進んでいないと言われています。オフィスアワーを通じた教育が、より充実したものになるためには、教員は単にシラバスにオフィスアワーの時間帯を示すだけでなく、授業のなかで「気軽に研究室に来なさい」と伝えたり、研究室のドアを開放して歓迎の意思表示を行うことが必要でしょう。さらに学生自身も、授業でわからないことをそのままにしないで、教員の研究室に足を運ぶといった能動的な学習態度を身につける必要があります。しかし、こうした教員や学生の取り組みを支えるためには、オフィスアワーの制度化を進める一方、気軽に話せるラウンジなどの施設を整備することなど、大学組織による取り組みが必要です。

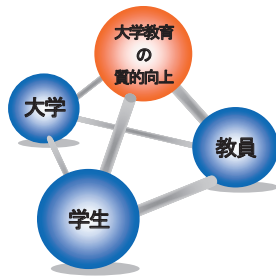


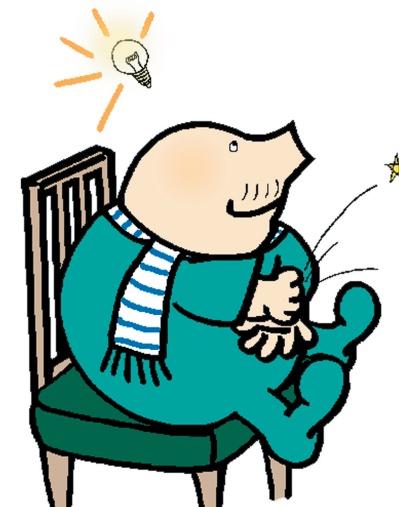
図 大学教育の質的向上を支える学生・教員・大学組織

以上のような考えに基づいて開発したため、『ティップス先生からの7つの提案』は教員向け、学生向け、大学組織向けの三分冊からなっています。それぞれ教員、学生、大学組織がよりよい授業・教育を実現するために役に立つ提案を7つの短い文章にまとめ、それぞれの提案のもとにすぐにも実行可能なアイデアを7つずつ配置しました。それぞれの分冊は、他の2つの分冊と内容的に関連づけられており、教員、学生、大学組織の三者の視点から同じ目標へのアプローチが示されています。

本冊子を作成するヒントになったのは、米国高等教育学会で開発された『優れた授業実践のための7つの原則』でした。この原則を参考にしながら、日本の大学での活用をめざし、名古屋大学が蓄積してきた事例、独自の調査、教授・学習理論研究の成果を用いた結果、オリジナリティの高いものが作成できたと自負しています。また、『ティップス先生からの7つの提案』という名称をつけた理由は、高等教育研究センターにおいてすでに開発された授業の秘訣集である『成長するティップス先生』と本冊子が相互に補完的関係にあるためです。

すでに述べましたように、この冊子は評価基準を提供することを意図したものではありませんし、また、アイデアの中にはすでに名古屋大学において

実行されているものも多数含まれています。ですから本冊子はむしろ、大学にとって最も重要な活動である授業を充実させ、よりよい大学をつくっていくために、考えるべき点を整理したものとお考えいただければと思います。この冊子が議論のきっかけとなり、名古屋大学の教育の質的向上に資することになれば幸いです。



提案 1

学生と教員が接する機会を増やす

集団の中の一人として見なされる時よりも、一人の個人として見なされるときの方が、学生は授業に対する帰属意識や責任感を持つものです。授業への参加度を高めるためにも、学生と教員が接する機会を大切にしましょう。大学組織としても、そのような機会が増えるような制度や環境を整えるなどの仕組みづくりを心がけましょう。

- ➡ 学内に学生と教員が話をするのできるラウンジ等の施設が整備されている
- ➡ シラバスでオフィスアワーを設定するよう教員に求めている
- ➡ 学生・教員・職員が参加するレクリエーションなどのイベントの機会がある
- ➡ 教員の専門領域、研究内容、担当授業などを一覧できる資料が整備されている
- ➡ 教員の書いた本が図書館などにまとめて展示されている
- ➡ 学長、理事、学部長などが学生の意見を聞く機会をもっている
- ➡ 学生に対する指導に熱心な教員を高く評価している

提案 2

学生間で協力して学習させる

学生は仲間と協力関係をもって学習にとりくむことで、授業に積極的に参加することになります。また、それぞれの学習方法や考え方の違いを認め互いに補い合うことで、授業内容をより深く理解することが期待できます。教室の内外で学生が他の学生と学習活動を容易に行えるような環境を整備することによって、協力して学びやすい雰囲気をつくりましょう。

- ➡ グループ学習の可能な施設が整備されている
- ➡ 学期中は図書館や食堂などが週末・夜間も開いている
- ➡ 机や椅子が可動式になっている教室が多く用意されている
- ➡ 学生が他の学生のアドバイザーとして活躍できる制度がある
- ➡ 学生が自由に利用できるメーリングリストと電子掲示板がある
- ➡ 学生が夜間安全に過ごせるように街灯が整備されたり、警備員が配置されている
- ➡ 学生の自主的な勉強会に対して、成果を発表する機会を提供している



提案 3

学生を主体的に学習させる

大学教育においては、主体的に学習する姿勢を学生に身につけさせることが重要です。受け身の学習では高い学習効果を期待することはできないからです。残念ながら、大学には主体的な学習に慣れていない学生もいますし、主体的学習を促す教授法に慣れていない教員もいます。大学組織は、そのような学生や教員を支援することを期待されています。

- ➡ 学生に主体的に学習させることの重要性が大学の教育目標の中で示されている
- ➡ 学生の主体的な学習を促進するような教授法を教員が身につけるための研修を行っている
- ➡ 文献の探し方、文献の読み方、ノートの取り方、レポート・論文の書き方などのセミナーを開催している
- ➡ 授業時間外の学習を促進するようなシラバスづくりを教員に奨励している
- ➡ 学生が利用できるコンピュータが十分に用意されている
- ➡ 学生を対象に授業をよりよくするための提案やアイデアを集めるアンケートを実施している
- ➡ 研究会やインターンシップなどへの学生の参加を促進している

提案 4

学習の進み具合をふりかえらせる

学生にとって、どこまで学習目標に到達しているのかを確認することは、その後の学習を進める上で貴重な情報です。また同時に、教員にとっても授業の進め方をチェックするよい機会となります。大学組織は、多様な方法で学習の進み具合をふりかえる機会を与え、その結果をフィードバックする仕組みをつくりましょう。

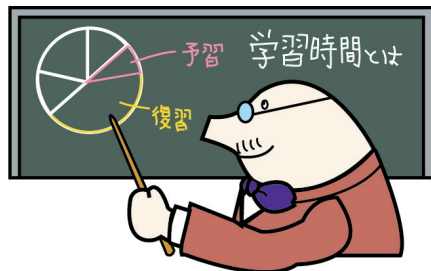
- ➡ 学生が学習履歴をふりかえるための情報が充実している
- ➡ 成績不振の学生に対する学習支援やカウンセリングを行う部署がある
- ➡ 習熟度別のクラス編成を行っている
- ➡ 複数回の試験や課題の結果に基づいて成績評価を行うことを教員に奨励している
- ➡ 試験やレポートの採点結果を学生に返却するよう教員に求めている
- ➡ 学生による授業アンケートが簡単に行える用紙が用意されている
- ➡ 個別の学生へのフィードバックを重視する授業にはTAが配置されている

提案 5

学習に要する時間を大切にする

授業時間外の学習の大切さは広く理解されてきたようですが、どのように学習時間をやりくりしたらよいかにとまどう学生も少なくありません。時間を有効に活用することは、学生の学習成果を左右する重要な要素です。大学組織は、学習時間の管理方法を入学後早い段階で学生に身につけさせることが求められています。

- ➡ 学習に要する時間を考慮してカリキュラムが設計されている
- ➡ タイムマネジメントに関する学生向けセミナーが開催されている
- ➡ 出席を確認したい教員向けに出席カードなどが用意されている
- ➡ 学期内に履修登録できる単位の上限数が決められている
- ➡ 長期欠席をしている学生を事務室で把握している
- ➡ 授業時間外の学習量について教員間で議論する場が設けられている
- ➡ 学生が集中して授業に参加できる教室環境を整備している



提案 6

学生に高い期待を寄せる

学生は、教員や周りの期待に対して敏感に反応するものです。学生は期待されていないとわかったら、学ぶ意欲を衰退させ、結果として学習効果は低下するでしょう。大学生活のさまざまな場面で学生に対して期待していることを伝えたり、学生の意欲に応えるような仕組みをつくることで、学生の学ぶ意欲を刺激してみましょう。

- ➡ 教育目標の中に、学生に対する高い期待が示されている
- ➡ 学習やキャリア形成などに関して、学生が相談できる組織がある
- ➡ 留学やインターンシップなどを希望する学生を支援する組織がある
- ➡ 意欲のある学生を対象にした学習・研究費助成を行っている
- ➡ 学部学生が大学院の授業を見学・参加することができる
- ➡ 成績優秀者に対して総長表彰、奨学金支給、飛び入学などの機会を与えている
- ➡ 教員の研究内容について学生が容易に知ることができるようになって

提案 7

学生の多様性を尊重する

大学はさまざまな学習スタイルや属性を持った学生を受け入れることで活力を生み出しています。大学は、そうした多様性を尊重するとともに、学生のみならず構成員全員にそのことを伝える必要があります。学生の多様性は授業を阻害する要因と見なすのではなく、学生の視野を広げ教育効果を高める一手段としてとらえてみましょう。

- ➡ 大学の目標・計画の中に多様性の尊重へ向けた取り組みが掲げられている
- ➡ 執行部・教員・職員・学生向けに多様性を理解するセミナーが実施されている
- ➡ 大学にふさわしい多様な学生を確保する入試のあり方について検討している
- ➡ 未履修科目がある学生向けに補習授業を開設している
- ➡ 成績評価において、教員が多様な方法で複数回評価することを奨励している
- ➡ 障害を持った学生や社会的弱者の学生に対する学習支援を行っている
- ➡ 日本語以外の言語で行われている授業がある

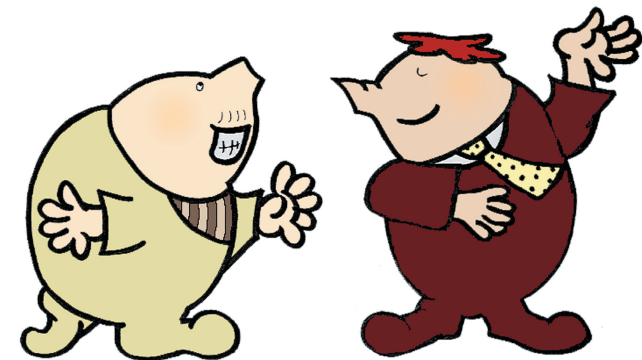
お知らせ

1. 本冊子に収録できなかったアイデアや他の分冊の内容をお知りになりたい方のためにホームページを作成しました。

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/>

2. 『ティップス先生からの7つの提案』の4番目の冊子として、IT活用授業編が加われました。インターネットやメールなどのITを活用して教員が授業の質を向上させるアイデアがまとめられています。
3. この冊子をお読みにになった感想、改善案、本冊子に含まれていない重要なアイデアなどのコメントをぜひお寄せください。また本冊子をご入用の方もご一報ください。

連絡先: メールの場合は、info@cshe.nagoya-u.ac.jp
 学内便の場合は、高等教育研究センター宛



本冊子作成のために参考にした主な文献

- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)『成長するティップス先生－授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部。
- デイビス, B. G. (香取草之助訳)(2002)『授業の道具箱』東海大学出版会。
- 中井俊樹・中島英博(2005)「優れた授業実践のための7つの原則とその実践手法」『名古屋高等教育研究』第5号, pp.283-299.
- 中島英博・中井俊樹(2005)「優れた授業実践のための7つの原則に基づく学生用・教員用・大学用チェックリスト」『大学教育研究ジャーナル』第2号, pp.71-80.
- 名古屋大学教養教育院(1998-2005)『豊かな教養教育を目指して－共通教育の方針・事例集』各年度版。
- 名古屋大学高等教育研究センター(2005)『実践的教授法の開発を目指して－「成長するティップス先生」の記録 2004.08-2005.03』特色GPシリーズ1号。
- 名古屋大学高等教育研究センター(2005)『「ティップス先生からの7つの提案」の開発』特色GPシリーズ3号。
- 夏目達也編(2005)『学生・教師の満足度を高めるためのFD組織化の方法論に関する調査研究』平成 16・17 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))中間報告書。
- ボイヤー, E. L. (有本章訳)(1996)『大学教授職の使命』玉川大学出版部。
- Chickering, A. and Gamson, Z. (1987) “Seven Principles for Good Practice in Undergraduate Education”, *AAHE Bulletin*, March 1987, a publication of the American Association of Higher Education.
- Chickering, A., Gamson, Z. and Barsi, L. (1989) *Institutional Inventory*, the Seven Principle Resource Center, Winona State University.
- Gamson, Z. (1991) “A Brief History of the Seven Principles for Good Practice in Undergraduate Education,” *New Directions for Teaching and Learning*, No47, pp.5-12.

開発スタッフ

名古屋大学高等教育研究センター

戸田山 和久
夏目 達也
近田 政博
中井 俊樹 (プロジェクトチーフ)
鳥居 朋子
中島 英博 (現在、三重大学高等教育創造開発センター)
青山 佳代 (現在、名古屋大学評価企画室)

イラスト

スコール株式会社

ティップス先生からの7つの提案〈大学編〉

2005年9月1日 第1版 第1刷
2006年7月1日 第1版 第2刷

著者 名古屋大学高等教育研究センター
名古屋千種区不老町
TEL 052-789-5696
info@cshe.nagoya-u.ac.jp

印刷 株式会社ダイテックホールディング
名古屋市東区主税町4-85
TEL 052-856-6645 FAX 052-856-6646
odp@daitec.co.jp

© 名古屋大学高等教育研究センター

2005. Printed in Japan

ISBN4-901730-65-7